

議会からの意見・要望に対する 市長からの回答

平成29年8月に市内9会場で開催した「議会報告会」で出された意見・要望。また、その意見・要望を踏まえながら9月に「決算特別委員会」を開催。さらに、「まちづくり・活性化特別委員会」において、まちづくり総合プランに係る意見・要望をとりまとめました。

これらの意見・要望を29年11月に議会の総意として市長に提出し、回答を求めました。

次のとおり、2月19日に市長から回答がありました。

要望と回答（要約）

1. 大牟田市動物園

利便性の向上を図るため、施設の整備に取り組まれない。

また、持続可能な運営が図られるよう、収入増や経済効果が波及するような仕組みづくりとともに、動物の飼育・繁殖・展示についても計画的に推進されたい。

【回答】

男女兼用トイレについては、女性専用トイレを新設し対応したい。

また、魅力向上を図る観点から、絵本ギャラリーの整備に向け取り組みを進め、あわせて休憩室不足等の課題にも対応していきたい。

2. ほっと安心奨学金制度

取り組みが進んでいないと思われることから、他都市の状況等を調査・検討し、本市で可能な制度の構築に向け、より一層努力されたい。

【回答】

奨学金返済支援制度「おおむた100若者未来応援事業」を創設する。

3. 防犯灯・街路灯

維持管理において地域の負担が重いとの声もある。電気料金などのさらなる負担軽減に努められたい。

【回答】

ＬＥＤ化を進めており、29年度から防犯灯・街路灯の取り替えに係る補助率を50％に拡充している

また、30年度から防犯灯・街路灯設置費補助を100万円増額する予定。

4. 学童保育所・クラブ

地域資源も有効に活用しながら、待機児童の解消を図られたい。

また、29年度のアンケート調査を早急に分析・検証し、さらなる充実に向け、利用時間の延長を含め30年度予算への反映に努められたい。

【回答】

利用時間延長の課題としては、財源の確保や学童保育所支援員の労働条件の変更・人員確保であり、現在、協議・検討を進めている。

5. 保育士の確保

処遇改善を国・県に求めるとともに、労働環境の改善につながる本市独自の支援策も検討し、関係機関と連携して地元に長く勤務できる環境づくりに取り組まれない。

【回答】

国では29年度から保育所等におけるキャリアアップの仕組みの構築を支援する「技能・経験に応じた処遇改善」が実施されており、本市も国の制度を踏まえ実施することとした。

6. 病児・病後児保育事業

子どもの医療制度の拡充策として、働く保護者への支援の強化を。

また、病児保育事業についても、関係機関の理解や協力を得ながら、実施に向けて取り組まれない。

【回答】

病後児保育事業を13年度から委託し実施してきたが、29年11月から休止状態となっており、現在、医師会等に相談しながら、新たな委託先の確保に努めている。病児保育事業の実施は大変厳しい状況。

7. スクールソーシャルワーカー活用事業

課題を抱える子どもたちへの支援に大きく貢献していることから、増員配置に向け取り組まれない。

【回答】

29年度から1名増員し、体制の強化を図っている。

30年度は大学等の専門機関と連携を図り、困難な事案の対応策の調査・研究を進め充実を図りたい。

8. シティプロモーション

観光資源の活用に当たっては、より効果的な成果が得られるよう、市として総合的に統括する機能を強化、発揮しながら推進されたい。

また、本市にゆかりのある人的資源も積極的に生かされたい。

【回答】

29年に「シティプロモーション戦略・ガイドライン」を策定。

大牟田大使の拡充や内田麟太郎氏の企画展などを実施。

職員のスキルアップと総合的な底上げ、観光・人的資源も積極的に活用し、より効果的なプロモーションを進める。

9. 市庁舎整備

整備手法の検討など進められているが、適宜、情報の公表を。

また、有利な財源等の活用に即応できるよう、早急に取り組むとともに、必要に応じて、創設された国の支援事業の延長も求められたい。

【回答】

改修、建て替えなどのモデルケースを設定し、市民アンケート・附属機関の検討などを行い、整備手法等に係る対応方針を30年度内に決定したい。